

IIOプロデュース株式会社 代表取締役会長 伊藤さんインタビュー

① 伊藤さんから見た「若い子の現状」

Kさん:「ヒアリングからアフターフォローまで最大2年間をかけて行う」と、公式サイトサービス欄にて拝見させていただいたのですが、2年はだいぶ手厚いように思えました。

伊藤俊輔氏(以下敬称略):そんなことはないよ。「こういう課題があるから、こんなソフト・システムを作っていますよ」だけでも意味がなくて。やっぱり実際に使ってみて、使い勝手が悪いときは直すってところまでやらなければ意味がないので。

こういう「お金だけもらって、結果何もない」っていうことがすごく多いから、僕はコンサルもできるけど、コンサルはあまり好きじゃなくてね。

Kさん:なるほど

伊藤:本当のコンサルは本に載ってないことばかりですね。でも、今の若い子は知識が揃わないとできないことが多いのよ。不安だから踏み出せない。そういう子は多分何も生み出せないと思う。

Kさん:確か、オープンカンパニーの記事にも似たようなことが載っていましたよね。私もあの文章が気になっていて、後程聞こうと思っていたんですよ。

伊藤:そう、だからね、学校で勉強したり資格取得したりって、本当に気休めでしかなくて。結局、その知識は資格を取ることが目的になっていて、その後はきれいに忘れて、努力をしたっていう過去だけが残っているのよ。

Kさん:私もそういう名ばかりの肩書にとらわれていることが好きではなくて、私には合わないなって思っていたんです。

伊藤:多分、みんな自分に自信がないから。そういう目に見えるものは一つの目標ではあるんだけどね。目標を定めて進むことはいいことなんだけど、資格は昔取っただけで終わってしまう。

Kさん:わかる気がします。オープンカンパニーにも掲載されていたように、『アイデアなどを思いつく際、少ない知識を応用する知恵が大事だと思います』とありますが、まさにこのことですね。

伊藤:そうそう。料理とかでもなんでも一緒や。例えば工具箱があった時、中に道具がいっぱいあったとすれば、何でも作れそうな気がする。だけど、実際には少ない道具でものすごいものを作れる人にならないといけな。いくら工具箱の中に知識をばんばん入れたって、いろんな工具揃えたって、それをどう使って、どのようなものを生み出していこうかなって考えること、その知識の応用とか知恵がなかったら、道具だけの何もできない人と同意義や。

Kさん:本当にその通りだと思います。スタートを揃えたって、何も始まらないですもんね。



②「応用」から動いた「みくに隠居処」と「おとと」

Kさん: 先程、伊藤さんが「応用することが大切」とおっしゃったと思いますが、その応用こそがこの「みくに隠居処」とか「おとと」なのですか？

伊藤: そうそう。隠居処の方から言うと、伊藤家は昔の役所で、ご隠居さんが寝泊まりして旅館みたいに集う場所やったのよ。こういう歴史とか文化の経緯をもう一度、現代風に見せ方・見え方を変えて、要はオマージュして、お店を作ろうと思った。その目的はやっぱり、「地域を良くしていきたい」という想が一番あったわ。

でも、実際に地域をよくしたいって言ったとしても行動してない奴の言葉なんて誰も振り向かないからさ。だったら僕が、『一番難しい道を一番最初に行こう』と言うことで、「3年間で生存率が約10%」というサービス業を始めたのよ。

Kさん: すごい覚悟ですね。

伊藤: うん、26, 27歳の時に政府系金融機関で1億4000万ぐらい1人で資金調達したんよ。このとき、日本で僕しかないって言われた(笑)

それで独立して、コロナも乗りきって。

やっぱ、地域を良くしていこうと本当に思ったら、目に見えない『信用と信頼』を勝ちとらなあかんからさ。昔から得意なアイデアを出しては、それを試す場所も必要だったり。それを試す場所として、このサービス業とか、実際にレストランと宿泊施設を作る。

だから、地域を良くしていくために考えた企画を、実際に自分のお店で試す。要は、ステージが必要。

Kさん: 試すために、これだけのお金を使って自分のお店を作ったということですか...! ? 並大抵の覚悟じゃ出来ませんね。

伊藤: そう。それで、「おとと」の方は、どうしても海に関連することがやりたくてね。実は僕、Yahoo!のトップニュースに2回なったことがあるんやけど、両方とも「おとと」で出てるんよ。釣った魚を現金で買い取りますよって言うね。

今、漁業者がすごく減って、地元の魚を捕る人が少なくなってるからさ。子どもの頃から海を好きになってもらうために、「釣って、さばいて、食べれる」海釣り体験教室っていう観光コンテンツを開発したんよ。教育的な要素を取り入れて、サプライチェーンの川上から川中、川下までを一貫して楽しめるようにね。

実際、これで釣りを通して海が好きになって、釣りデビューした人もいっぱいいるし。

伊藤: 開発した観光コンテンツというか、地域活性のコンテンツを自分で背負って、自分のステージで試す。そこで結果が出るものを他の地域とかに横展開していくって言うビジネスモデルを作ろうとしたんよ。

まあ、自分でも頭おかしいやつやと思うで(笑)

Kさん: (啞然、笑い、驚き)



③『自分にしかできないこと』とは...?

Kさん: 伊藤様がこのように地域をより良くしたいと思ったきっかけとか、原動力となるものは何ですか?

伊藤:大阪の大学に行くために、福井を離れた時かな。「自分のふるさとって、福井って、居場所やったんやな」ってすごく思ったんよ。

その後もサラリーマンしていた時に、やりきれなかったのよ。ここからここまでっていう線引きがあったり、他の仕事もあってできなかったり...みたいな消化不良のような状況だったのよ。もちろん、前職でも福井の経済を良くしていくために働けるところで、経営者の人がいっぱい集まる場所だったんやけど。じゃあ、そこで何十年も働いたときに「自分のふるさとが良くなった」って胸張って言えるのかといたら、違ってさ。

伊藤:自分にしかできないことではないなと思ったんよ。

やっぱり、「変える」よりも「より良くする」、more betterが楽しみの一つというか。

困っている誰かのために、今置かれている状況をチェックして改善すること、形にできないものを形にすることに、僕はテンションが上がる性格かな。

④ 互いに通ずる思考方法

Kさん:分かります。私も考察が好きで、かつ、伊藤さんと同じように、考えて行動するような「1から10」ではなく、「0から1」の行動が私の性格なんだなって思ってます。例えば、私の趣味である映画鑑賞と音楽だったら、台詞や背景、MVとかから考えを巡らせることが好きです。けれども、これらは全て映画監督とか音楽家とかのアーティストの脳内であって。彼らは、彼らの見ている世界を形にできているということで、それってすごく誇らしく、リスペクトできる点だなと感じています。それこそ、先程、伊藤様がおっしゃったように私にしかできないことなんだろうなって、漠然と考えながら今、このインターンとかに参加しているんですけど...

伊藤:うんうん、Kさんは自分探しをしているって感じだね。昔の僕と一緒に。自分でも何者かっていうのを知りたいんだよ。俺はオーケストラを聴いて作曲家が描く風景を考えることが楽しいのよ。街並とか雄大な山々とか、目に見えないものを求めて体感する感じ。

オーケストラは歴史が古いからさ。特に中世ヨーロッパの時期なんて、戦争に勝った国の王様を称えるためのファンファーレみたいな感じでも作られたりして。

「この時の情景はいったいどんな感じなんだろう!？」ってね(笑)

伊藤:こんな感じで、違っていてもいいから物事へ向き合っていく。この姿勢が多分自分を高めていくんだと思う。

僕、商学部やったんやけど、他のあらゆる学問も受けてて、哲学も受けてた。

Kさん:私も県大で受けてます!面白いですよ。

伊藤:そうそう。特にね、アウフヘーベンしてジーンターゼの状態に持っていきつつというのがすごく大事でね。アンチテーゼは負の状態を指すんだけど、これこそプロデュースしていくときに重要な考えですね。なぜなら、社会の多くは課題がいっぱいのアンチテーゼの状態だから。

アウフヘーベンっていうと難しいんだけど。要は、負の状態をさらに否定することによってプラスに変えるっていうこと。

でも、この考えは、実はみんな数学で習ってるんだよね。マイナス×マイナスはプラスだって。

Kさん:分かります。草間彌生さんの「サイコソマティックアート」のように病的な背景や環境も相まって負の状態を、さらに具現化し続けて追い込んで乗り越えていくことこそ芸術表現であると思

います。やはりこの考えは、伊藤様のおっしゃる通り、大切なことなんだから改めて腑に落ちました。

伊藤: そうそう。自分の人生、本当に前に進みたかったら、どれだけ自分の過去を振り返るかや。過去に起きた嫌なこととか辛かったこと。それらを負として目を背けずに、振り返って認めてあげる。そうすることで、本当に自分を大切にできる人間になる。だから、前に行ける。

Kさん: 分かります。みんな自分自身に目を背けるんです。
そうそう、新海誠監督の「すずめの戸締まり」ご覧になりましたか？

伊藤: え、全然分かんない、見ていない。

Kさん: ああ(泣)

新海監督は「君の名は。」では隕石、「天気の子」では異常気象と、新海監督は震災をもとに映画を作られるんですが、今回の「すずめの戸締まり」は東北の大震災をもとに作られています。簡潔に言うと、主人公のすずめちゃんが震災のつらい過去を持ち続けたまま高校生になって、その彼女が過去を想起して、もう一度自分を見つめ直すっていう物語なのですが、先ほどの内容が「すずめの戸締まり」と同じだなんて思って。新海誠映画ファンとして嬉しくなりました(笑)

伊藤: まじで、僕言った話そのままやん(笑)

そう、やっぱり自身を見つめて振り返ることは大事なことなんやって。



⑤ 自分の会社で全部はできないから

Kさん: 事業内容にはプロデュース以外にもあるように伺いましたが、こういうのは伊藤さんが発案して、担ってられるのですか？

伊藤: うちの会社では全部できないよ。企業同士で連携して、プロジェクトチームを立ち上げて、それでやっていくって感じ。個々の企業が持つ強みをまとめるんだ。それこそオーケストラの指揮者みたいに。

だから、「何経験したらいいんですか？」って聞かれても、分からない。今までの自分を押し出しているから、強いて言うなら総合力かな。これを高めるためには、意味が何かもわからないことにも意味を持たせるぐらいの、「振り返り力」が必要かな。

自分の成長に対して、常に貪欲であるべきだ。

僕も、まだまだ形成途中だって自分で感じてるよ。

Kさん: すごいですね...。(圧倒)

伊藤: 30個くらいの事業を頭の中に入れてるからバケモンって言われるんだけど(笑)、自分を信じることができたのも行動できた理由の一つかも。うちのご先祖様が超有名人やったり、歴史が厚いからさ。

Kさん: 先ほど「みくに隠居処」のお話でおっしゃっていたことですよ。

伊藤: うんうん。僕の場合は、誰かが言った言葉じゃなくて、ご先祖様がどんなことをしてきたかとか、それで血を引いてるんだみたいな感覚が強かった。

伊藤: 「不安なことはなかったのか」とも聞かれるんだけど、やっぱり性格かな。動き出したら止まらないのよ。だからきつと、足踏みしてる時が一番怖いんや、動き出せばこっちのもん。

あと、父も会社やることに対して何も心配とかしなくてね(笑)

本当にノータッチでさ。普通心配とか、ちょっとは気にかけてたりなんかすると思うけど、やっぱりうちの男はやっぱり面白くてね(笑)

Kさん: 本当にのびのびとしていますね。でも、すごく素敵なことだと思います。私の友達は親からの不安とか心配事が歯止めになって動けないこともあるので、意志のままに動けることは清々しいと感じます。

伊藤: 過度なのは良くないなあ。

Kさん: これに関しては私も、「子どものための」という見せかけの不安になりたくない親のエゴだと感じます。

伊藤: まず、やっぱり行動していることが良いよね。人に実際にあって話す。このことすら普通に出来ない人が多いよね。

やっぱり、何が自分の人生切り開いていって言ったって、自分の努力はもちろんやけど、『人と の出会い』や。

